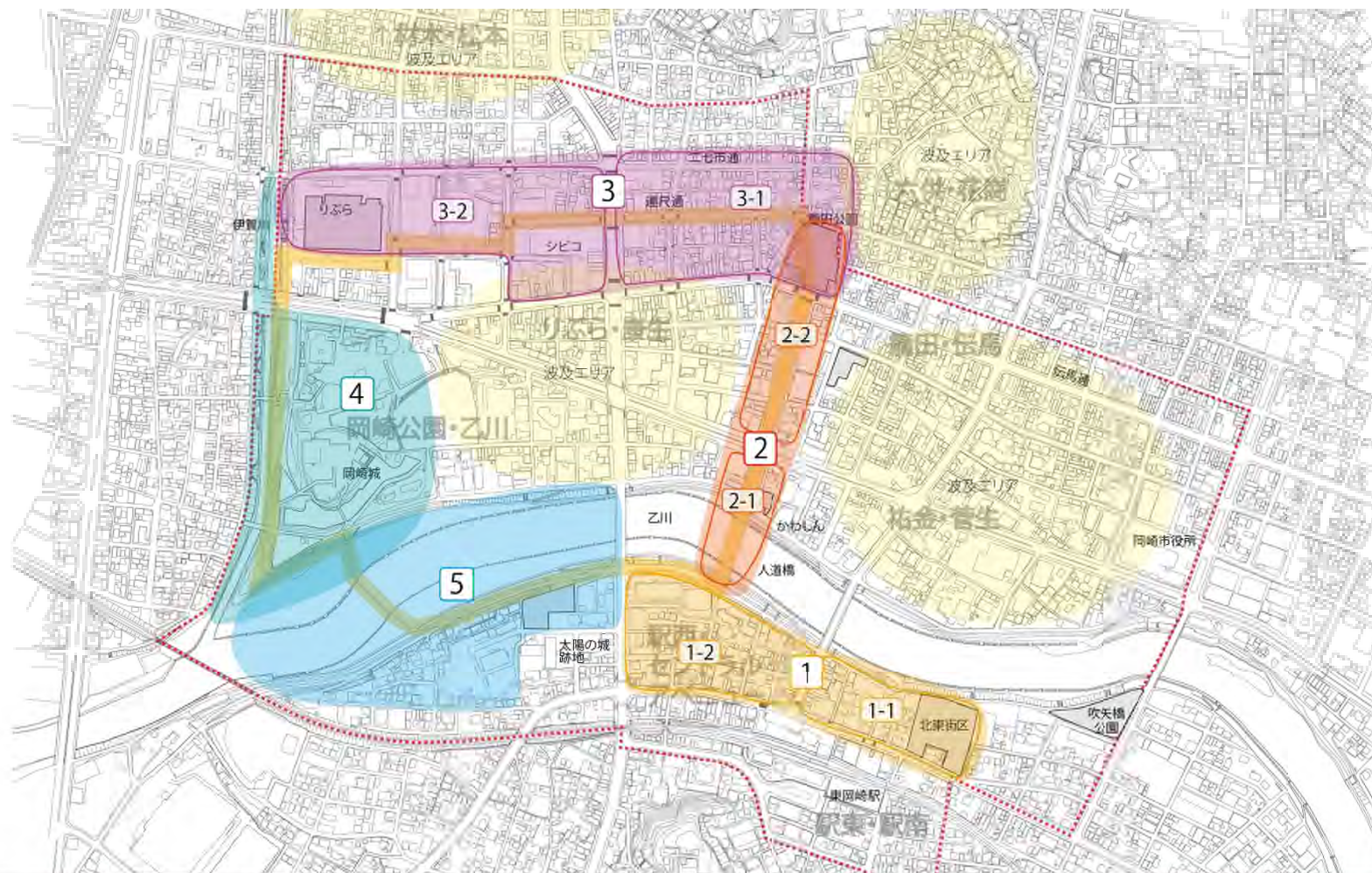




- 事業推進エリア
- 主要回遊動線
- 1 駅前エリア
- 2 セントラルアベニューエリア
- 3 旧東海道エリア
- 4 伊賀川エリア
- 5 乙川エリア
- 波及エリア

RF 計画（基本構想「基本理念」＝持続可能な都市経営）＝公共資産の利活用を通じて、民間投資の誘発を目指す公民連携まちづくりのモデルケース

基本構想の方針＝①回遊性の向上と滞留時間の拡大、②新しい公共サービスの担い手の創出、③良質な都市空間の形成 → 主要回遊動線（くるわ）上で重点的に①～③の実現を目指す＝**くるわ(QURUWA)戦略**

構想実現のための推進体制＝部署横断型の推進体制を築くための3つの会議体「デザイン会議」「推進会議」「官民連携調整会議」

→**QURUWA 戦略の実現＝「岡崎の公民連携のモデルとなる空間と仕組みの創出」「民間投資による集客コンテンツの充実・集積」＝観光産業都市の創造**

QURUWA 戦略＝歩いて楽しく、自転車で回れて、車でも来やすいまち

背景

これまでの公共投資（岡崎公園、りふら、歴史資料館、商店など）→点

リバーフロント計画によるエリア設定 →面

主要回遊動線設定と動線上の公民連携プロジェクト →線

『点から面、面に対する線の設定により、個性と魅力あるエリアをつなぎ、地区全体の価値を高める公民連携事業を展開する。』

- 作戦
- 1) 岡崎の暮らしが面白いと思わせる特徴的な新しいライフスタイルの集積エリアをつくる
 - 2) 公民連携によるエリアマネジメント組織と集客・収益事業モデルを構築する
 - 3) 各エリアの公共空間と民間不動産を活かした事業を展開する
 - 4) 質の高い民間投資を呼び込むためのモデルとインセンティブづくりならびにそのアナウンスを行う
 - 5) 公民双方のクオリティコントロール（デザインガイドライン、ストリートデザインマニュアル）を導入する
 - 6) 交通体系（自転車、バス、自転車、歩行者、駐車場など）の見直しを行う

乙川リバーフロント地区まちづくり主要回遊動線上における公民連携型エリアマネジメントイメージ図

基本構想を踏まえて、主要回遊動線上の集客ポイントを核としたマネジメントの単位となる空間的広がりを設定し、エリアマネジメントを構想する。

基本構想のエリアのゾーニング

：町界を単位とした性格分け（公民連携型、民間主導型、大規模投資型、小規模投資型）

エリアマネジメントのゾーニング

：人を動かすための拠点と軸線を核としたまとまり

